



行政書士 MAP

第18回：「After you（お先にどうぞ）」の行政書士

福岡県行政書士会

広報部発行

行政書士は扱う業務が幅広い仕事。そのため一人ひとりの得意分野や仕事の流儀、人生の背景も実に多様です。「行政書士 MAP」では、福岡県行政書士会の会員の中から、話題の行政書士やさまざまな活動を行う行政書士をご紹介していきます。

第18回は、久留米市を拠点に長く外国人の支援に携わってきた『行政書士大内田事務所 大内田 治男会員』を訪ねました。

広報部（以下「広」）：大内田会員、本日はありがとうございます。

大内田会員は、行政書士と社会保険労務士（以下「社労士」）とを兼業でなさっているとのことですが、資格を取る前はサラリーマンをされていたとか。そのあたりのお話からお聞かせ願えますか？

大内田会員（以下「大」）：20代の頃、東京の建設会社で働いていました。港湾工事の大手の会社で、各地の現場で浚渫（しゅんせつ）工事（※1）を担当し、全国を飛び回りました。ただ、忙しすぎたこともあったのでしょうか、離婚したのもその頃です。それが引き金となって4年目に一度、退職したのですが、先輩に声をかけてもらって復職しました。

復職して3年目、海外事業部へ移籍し、イラク共和国での浚渫工事に携わることになりました。イラクでの生活は、合計で2年3ヶ月。生まれて初めての海外生活は大変で、日本の良さがよく分かりました（笑）。また、人種が違っても人同士ならば分かり合えるのだと、強く感じました。

帰国後縁あって、二度目の結婚をしました。充実した毎日でしたが、そんな中、会社内で派閥争いが起きました。私を復職させてくれた先輩が敗れたことで、悩んだ末、退職しました。同じころに母が亡くなり、父が久留米で独り暮らしになったこともあって、会社を辞めて地元久留米に戻ることにしたんです。41歳のときでした。

それから地元の久留米に戻って、養生シートを洗う仕事など、前職と関係のない仕事を転々としました。周りからは、「東京で悪いことをしたからこっちに帰ってきた」と言われることもありました。妻は、東京に戻りたかったかもしれないですね（笑）。



そんな時、友人から、「お前はやりたいことやっていいな、奥さんと子どもさんが大変だ」と言われたことがありました。皮肉だったのでしうね。ただ、それがヒントになり、「そうか、好きなことを食べていいんだ」と奮起しました。あの時、同情されたらダメだったと思います。その一言が結果的に力をくれました。

そこから縁があり、社労士の事務所で働くことになりました。サラリーマン時代の事務の経験を活かし、助成金に関する仕事を担当しました。1年間で総額、6億5千万円ぐらいの助成金の仕事に携わり、忙しくしていました。そこから、自分でも資格を取ろうか、と考えはじめました。家族からも、「受験勉強の期間はお金がなくても我慢する」と言ってもらい、社労士の資格を取ることにしました。徹夜しつつ受験勉強をし、幸い、合格することができました。

そしてその後、独立し、行政書士の資格を取りました。建設会社時代に、イラクや東南アジアで外国人にお世話をうけたので、外国人の相談を受けたい、恩返しをしたいと思ったんです。困った時はお互い様ですからね。ただ、社労士では、在留資格(※2)の申請を取り扱うことができないので、行政書士を取ることにしました。



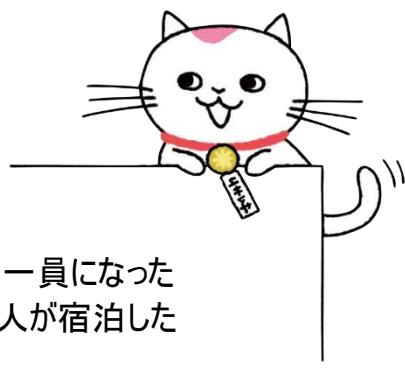
広:30年以上前ですね。行政書士が申請取次業務(※3)ができるようになって、まだ間がない頃ですね。独立されたきっかけは何かあったのですか？

大:そうですね……当時、働いていた社労士事務所の代表とうまくいかなかったのが大きかったかな、と。代表の仕事の進め方に、納得のいかない部分があったんですね。私にも、事務所に貢献しているという驕りがあったのかもしれません…。結局は、ケンカ別れのような形になってしまいました。

ですからその後が大変でした。悪い評判を広められたというか、社労士会の中でも厳しい立場でしたし、ハローワークの方にも名刺を受け取ってもらえなかったりもしました。ただ、その時は、いただいたご依頼を解決することに集中するようにしました。そのうち段々、周囲の方にも理解いただけるようになりました。

恨んで、気持ちが腐ってしまったら、自分自身も腐ります。今思えば、それがあったから独立して自由を得て、行政書士にもなれましたし、外国人支援の仕事に携わることもできました。当時の代表に感謝しなければいけないと思います。

広:大内田会員は、さまざまな会を立ち上げたとお聞きしています。現在も続いている久留米での外国人無料相談会もそのひとつであるとか。



大:久留米市が、久留米市国際推進委員会を立ち上げた際、私も一員になったんです。久留米をどう国際化していくか、と話し合う中で、当初、外国人が宿泊したり、国際交流を行ったりできる施設を建てようという案が出ました。

けれどもそれには時間がかかるし、お金もかかる。そこで、私は外国人向けの相談会を提案しました。それならすぐに始められるから場所を貸してくれ、と。平成 10 年の4月だったと思います。久留米はフィリピン人が多い土地柄ですが、最初は私たちを行政側の人間と警戒して誰も相談に来ない時期もありました。相談会の評判は徐々に広まり、多い時は日に 10 件以上のご相談があることもありました。

その 2 年後に、福岡県行政書士会北・南久留米支部(現くるめ支部)の 50 周年記念事業を行う、となった際には、この相談会を発展させる形で「在住外国人を交えた座談会」を行いました。現在は、認定 NPO 法人ワンストップリーガルネット(以下ワンネット)が主催で「外国人によるパネルディスカッション」という形で今でも続けています。

広:ワンネット自体も、現在も続いているとお聞きしています。

大:ワンネットは平成 18 年にできました。私は国から委任を受け、行政相談員としても活動していたのですが、行政書士だけでは限界もあります。弁護士や司法書士など他士業と連携して、無料の相談会を常設開催する目的で結成されました。

また、令和 2 年に立ち上げた「一般社団法人 わの会」では、主に北部九州の日本企業がインドネシアへ進出することや、外国人労働者を雇うことを支援しています。

ワンネットもわの会も、誰かが旗を振らないといけませんが、1 人ではやれません。私はできないことが多いから、皆が全部やってくれるんです。

広:大内田会員の人柄ですね。現在でも活動が続いているそうですが、さまざまな活動が長く続くコツは何ですか？

大:長く続ける秘訣は、自分は人よりのろいことかもしれません。のろまだから、人の後についていくことになります。ただ、人が嫌がってやらないこと、皆が諦めたところに、宝がある。私は後から、それを拾い集めているだけです。



相談員を引退する際、後輩たちから贈られた時計。



英語で、「After you」という言葉があるそうです。お先にどうぞ、という意味だそうですが、これまでの仕事を振り返ってみると、いつも「After you」でした。私はのろくて、何事も人よりも遅れるけれど、かえってそのおかげで、良い結果につながったのかもしれませんと思います。

皆がさっさと見切りをつけて辞めても私は辞めないから、結果的に続いているんですね(笑)。

広:平成 29 年には、瑞宝双光章(すいほうそうこうしょう)を受けられたそうですね。また、私塾のようなものもされているとか。行政書士の中には、「私は大内田門下です」とお話になる方もいました。

大:瑞宝双光章は、行政相談員を長くしていたからです。私個人というよりは、役職がもらったものです。

勉強会は、書士会とは別に我が家でやっていました。我が家には 20 置くらいの部屋があるんですが、そこにたくさんの方が来てくれました。勉強会もしましたし、相談ごとに知恵を出し合うこともありました。本も知識も、自分だけで抱えていると腐るものです。出していく方が、新しいものが入ってきます。



行政書士や他士業の方、市の方や会社勤めの方、政治家の方、いろいろな人が来てくださいました。佐賀など他県からも来てくださいました。

久留米や福岡に限らず、輪を広げていきたいんです。外国人の方にとっては、自分が住んでいるところでサービスを受けられた方がいいでしょう。住む場所で受けられるサービスが違っているのはおかしい。

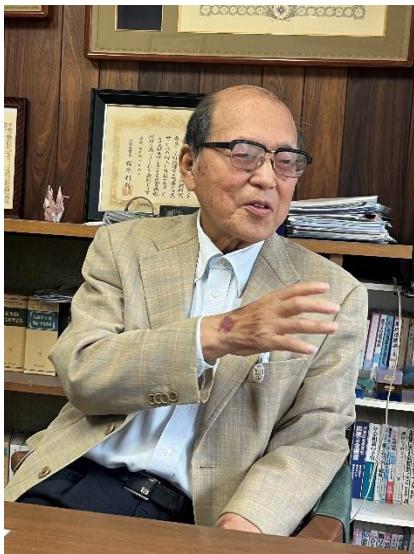
広:外国人支援の輪を広げておられるんですね。行政書士としてのお仕事で印象に残っているものは何ですか？

大:国際結婚をされたオーストラリア人の女性からの相談を受けたことがありました。当時、国際結婚だと、外国人は住民票の配偶者欄に名前が記載されませんでした。「私が母親なのに、なぜですか？学校の先生からも父子家庭ですかと聞かれます」と。



実際に生活する中では、切実な問題です。総務省に、外国人も住民票の配偶者欄に名前を記載すべきだと意見書を出しました。けれど、選挙権の問題があるからできない、と言われてストップしました。

他の方からも同様のご相談がありましたし、私はしつこいので、国への働きかけを続けました。その後、平成16年に住民票の備考欄に外国人名の記載が認められ、平成21年には住民基本台帳法の改正により、ようやく、外国人も住民基本台帳に記載されることになりました。



広:後輩の行政書士へ向けてメッセージをいただけますか。

大:行政書士の仕事の幅が広いのは強みであり、面白さだとお伝えしたいですね。ひとつのご相談から、できることがどんどん広がります。

1人で難しい面があれば、それは協力し合えばいいんです。また、行政書士の資格だけにこだわっていては動けません。今ワンネットにもいろんな士業がありますが、他の士業とも力を合わせればいろんなことができると思います。私は実は、今、肺がんを患っていますが、10年くらいになります。

広:とてもご病気とは見えません。

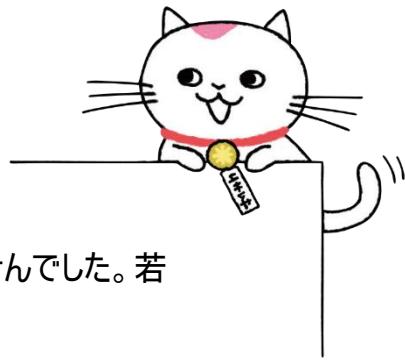
大:ストレスがないから、元気なんです。

今世の中に、「日本人ファースト」の流れが出てきました。大変でしょうと聞かれますが、私はよかったですと思っています。外国人支援をすることに難しいことが出てくるかもしれません、チャンスかもしれません。

外国人が土地を買うことのルールがきちんと整備されれば、双方にとって良いでしょうし、他国で外国企業がやりづらくなることで、逆に日本に企業を誘致できるかもしれません。自分のやりたい方向じゃなくても、何か道が開けばいいんです。できないことはないと思って、トライして全部やってみればいいんです。

乗り越えるべき場面が出てきたら、そこが竹の節。節があるから強くなるんです。

広:大内田会員のこれまでにも、それだけ節目があったということですね。



大:これまで、「何か目的がありましたか」と聞かれますが、全然ありませんでした。若気の至りで、挑戦しようということだけがありました。

依頼が来たら、何でもやってみればいいんです。私も、みんながやっていないことをやりたいんですね(笑)。ドン・キホーテ(※4)みたいなものでしょうか。

広:ミュージカル「ラ・マンチャの男」でも有名な、あの物語の主人公ですね。

大内田会員も、難民等認定手続きをはじめ、難易度の高い依頼も数多くなさったと聞きました。

大:ドン・キホーテみたいに無鉄砲なだけかもしれません(笑)。病気もあるし、足が不自由でもあるので、妻には、呆れられて、哀れに思われてもいるようです(笑)。でも、生きている間は続けてみようと思っています。

この先も老後を楽しく過ごしたいんです。これから挑戦したいことがたくさんあって、筑後地域に農業特区を設けて農業を盛り上げることや、行政と協力して、空き家問題に取り掛かることも目標です。実現が困難と思われることもやっていきたいと思っています。



広:ますますご活躍ですね。今日は、ありがとうございました。

※1 船舶の航行の安全を確保し洪水を防ぐために、河川や港湾などの水底にたまつた土砂を取り除き、必要な水深を確保する土木工事。

※2 外国人が日本に在留し、活動できる内容を定めた資格。

※3 行政書士が申請人に代わって出入国在留管理庁に在留資格に関する申請書等を提出する業務。一定の研修を経た行政書士が行うことができる。

※4 スペインの小説。騎士道物語を好むあまり、現実と空想の区別がつかなくなつた主人公が、騎士になりきり冒険に出る物語。

行政書士プロフィール～

大内田 治男(おおうちだ はるお)

登録年月日:平成 5 年 3 月 9 日

事務所所在地:久留米市東櫛原町 1313 番地 2

この記事は令和 8 年 1 月 1 日の情報です

